

【家庭数配布】

小中一貫校 南アルプス市立白根飯野小学校

学校だより

白根飯野 桜梅桃李

【学校教育目標】

～郷土を愛し、たくましく生きぬく子ども～

【9年間で目指す児童像】

～思いやり、創造力、すこやかな体をもち、

未来を担う 白根こまっ子～

令和7年6月24日 No6 文責 保坂 泉(校長)

“道徳授業参観”ありがとうございました。

今月13日(金)に行われました、1～3年生の道徳授業には、多くの保護者の皆様と地域の方々にご来校いただき、児童の学習の様子を参観していただきました。学年に応じた内容で、自分の生活を振り返ったり新たな道徳的価値に出会ったりして、学びを深めることができていたように感じています。学習形態も個で考える場面があったり、小集団で活動を進める場面があったり、学級

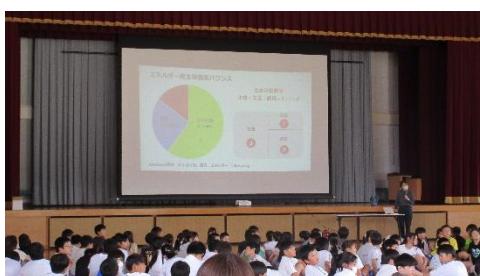


全体で確かめる場面があったりで、児童が自分の考えと他者の考えを比べ合い、考えを深められるように授業者も工夫しておりました。道徳においては決まった答えはありません。様々な考え方があることを知り、異なる考え方を認め合い、新たな道徳的価値観が持てることが大切です。その時間だけで終結するのではなく、普段の生活において似たような場面に遭遇した時に、今までの自分とは違う行動がとれるようになって、その授業が一区切り

つくのだと考えられます。そう考えますと、児童が何気なく過ごしている生活は、道徳の授業の延長線上にあり、実践の場と言ってもいいのではないでしょうか。どんな学習でもそうですが、知識として身についたとしても、それを行動に移したり活用したりすることができなければ、生きる学びにならないと思っています。学校での多くの学びをこれからの中の未来を生き抜く学びに繋げられるように、職員も頑張ってまいります。多くのご支援をよろしくお願いします。



«「教育講演会」も行われました»



道徳の授業参観に続いて、体育館で3年生以上の児童と保護者・地域の方を対象として、「教育講演会」が行われました。今年度、白根飯野小学校は50年に1度しか指定されない中巨摩地区の食教育推進校に指定されました。多くの方は「食育」という言葉を一度は目にしたり耳にしたりしているのではないでしょうか。昨今、児童生徒の健全な成長に大きな影響を与えるものとして「食」の重要性が取り上げられています。現在、全職員でそれに関わる研究活動を進めているところですが、その一環として、「子どもを育てる食事・栄養の話」を演題に山梨学院短期大学准教授の鈴木 瞳代先生を講師にお招きしご講演いただきました。時に児童向け、時に大人向けに、成長に欠かせない「食=栄養⇒健全な発育」について資料を提示しながらわかりやすくお話しいただきました。大変貴重で有意義な機会になりました。

～1学期も残り1か月！！～



梅雨に入り、夏本番はもう少し先のことだと思っていましたら、突然の猛暑続き。急な暑さで、児童が十分な暑熱順化が十できているかが心配で、環境省からの熱中症指数と校内に設置しているWBGT計とにらめっこする日々を過ごしていました。エアコンの適時使用、水分補給等、児童が熱中症にならないよう十分配慮しながら教育活動を進めておりました。今後も児童の安全を最優先にしてまいります。

ふとカレンダーに目をやると、1学期も残り1か月ほどになっていることに気づきました。つい先日、入学式・始業式をしたばかりだと思っていたのに…。つい先日、6年生と修学旅行に行ってきたと思っていたのに…。時が経つのは早いものです。この3か月弱で児童も成長しました。1年生は、学校生活に慣れ新しい活動にワクワクしながら挑戦しています。2年生は、1年生を迎えてお兄ちゃんお姉ちゃんらしくなり、1年生のために「仲よし集会」を開いてくれました。3年生は、新しい教科の学習(理科・社会)に意欲的に取り組んでいます。4年生は、学ぶ楽しさを知り、仲間と協力しながら力をつけています。5年生は、学校全体の仕事に取り組むことで高学年としての自覚を持つようになり、6年生は、最上級生として課せられている責任を感じて活動しています。今学期、残り1か月を有意義に過ごし、2学期以降の生活に生かしてくれることと思っています。



[白根飯野小学校は地域のみなさんに支えられています]

白根飯野小学校の保護者の皆さん、「教育振興会」という組織はご存じですよね。白根飯野小学校の児童のために、ご協力いただいている団体です。昨年度、本校が150周年を迎えた際に、運動会で使用するワンタッチ式のテント購入にご尽力いただいたり、児童の学習活動に急に必要になった物品の購入にご協力していただいたりしています。市の公費で購入しきれないもの等、地域で育つ白根飯野小児童のためにという思いで、環境を整えてくださっています。私が居住する地域では、そのような組織がないため、本校に赴任して「教育のために、子供たちのために、地域の皆さんのが率先して支援してくれる素晴らしいありがたい地域だ。」と感じておりました。こんな地域で育まれる子供たちは本当に幸せです。私も白根飯野小学校で勤務できて幸せです！

「教育振興会」のほかにも、「子どもを守る会」「青少年育成市民会議」「育成会」があります。多くの地域に似たような組織がありますが、少子化の波やコロナ禍を減る中で、この地域のように活発に活動しているところは少ないです。多くの地域の方々に支えられることに心より感謝いたします。

【校長の独り言…】

時が過ぎるのは早いものです。自分はまだ若いと言い聞かせていても、今年度、教員生活38年目になり、先日、還暦を迎えてしました。(気持ちは20代のつもりですが、体の衰えは隠せません。)そこで、新採用当時の若かりし頃を思い出しました。

道徳の授業で「友達」のことを題材にして授業を行ったことがあります。

「友達ってどんな存在？」

「そんな友達の中で、一番の友達のことってなんて言う？」

「『しんゆう』だけど、どんな友達が『しんゆう』なのかなぁ？」

「自分だったら、『○友』の○の中にどんな漢字を入れて『しんゆう』にしますか？」

ご覧になっている方々は、どんな漢字を入れますか？ 当時の子供たちからは『親友』も出てきましたが、それ以外にも『心友』『真友』『信友』『仲友』『深友』などが出てきました。その友達が自分にとってどんな存在なのかを考えて当てはめてくれたのがわかります。中でも心に残っているのが『神友』と書いた児童です。その児童にとって、その友達はかけがえのない素晴らしい存在だったのでしょう。一生のうちで、そんな友達と巡り合えたり、関係性をつくれたりできるといいですね。